

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800701		
法人名	株式会社 ウェルフェア		
事業所名	グループホーム ふたみ		
所在地	三重県伊勢市二見町松下1349-64		
自己評価作成日	平成28年7月29日	評価結果市町提出日	平成28年10月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472800701-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 8 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.看取り介護に取り組んでおります。職員全員と相談し合意の上で取り組んでいく事を基本にし、日頃から話し合いや勉強会などを行なっています。職員側からは積極的に前向きな要望が出てくるくらい向上心のある職員が多く、加えてホームドクターも協力的で職員に分かりやすく説明してくれ、家族とのカンファレンスにも参加してもらうなど、本人や家族に安心していただけるような看取り介護を目指しております。
2.職員は入居者様が『一日が嫌な思いで終わらないように』という事を念頭におき、日々の生活のお手伝いをさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は地域の自治会とも関わりを深めて、相互に交流しながらさまざまな取組みが進められており、地域密着サービスにふさわしい運営がなされている。また事業所内では、職員が一体になって業務に対応しており、非常に明るい雰囲気職場づくりがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「のんびり」「一緒に」「楽しみながら」と合わせ、施設での方針を入社時より説明している。『みんなで』という方針を掲げ、何事においても、職員全体で協力し合える体制づくりを実践している。	法人理念を事業所運営に生かすよう取組んでいる。「一緒に」「職員と利用者で、そして地域とも関わる」、「楽しみ」「皆が幸せになる」という取り組みをしている。それが雰囲気の良い働きやすい職場作りになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りの実行委員、会議や開催運営に協力し他の職員もボランティアとして、設営や片づけに協力している。利用者様も祭りに参加し町内の方との交流を深めている。またホームの行事参加や協力もお願いしている。	事業所に対する寄付や慰問のみでなく、さまざまな事業や行事には職員も利用者も地域住民と相互に日常的に関わっている。また地域に向けた認知症啓発活動がなされ、住民の理解を得るようになってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症についてお話させていただいたり、併設している小規模と合同で子ども世代から高齢者世代に向けての認知症啓発活動を実施している。今年度は、市のいきいきサロン2ヶ所、学童クラブ3ヶ所の活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や事故報告、サービスの変更や介護現場の現状や協力していただきたいことの報告を行った上で、ご意見など聞かせて頂きケアに活かせるようにしている。	隣接の小規模多機能施設と合同で偶数月に行っている。事業所の取組み状況、地域の行事予定、研修計画等が、報告・意見交換されている。時には協力医も参加しているが、家族の参加が少なく呼びかけに苦労している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のサービス事業者連絡会に加入しており、研修等にも参加し、情報交換している。また入居相談等、社協と相談するケースも増えており、協力体制を築けるよう、定期的に施設の実情をお伝えしている。	伊勢市では事業所連絡会が組織され、定期的な会議や研修がされているので、行政には気軽に相談できている。介護相談員は毎月来訪してくれ、最近では社協との相談がよくされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書類への記載と説明の上、同意を頂く。ホームには身体拘束委員会を設置し、施設内勉強会や会議を開催している。また玄関には鍵をかけておらず、開放感を感じて頂けるようにしている。	マニュアル集には拘束防止の他、防災・事故防止・食中毒等さまざまなテーマが綴られ、職員は適宜確認している。8月には法人で研修をした。また、ベッド転落等個別に問題があればミーティングで検討し、家族にも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会の実施と、日々のケアの中で、身体拘束にならないよう職員間で話合いながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会を実施。日常生活自立支援事業の制度を利用している方もみえ実際に学ぶ機会もあり、困ったこと、わからないことがあれば、社会福祉協議会と相談しつつ、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には見学の来ていただき、生活の様子をお伝えしている。契約時は重要事項説明書等を説明し、再度ご質問・不安などにも、お答えし理解してもらった上で署名、捺印を頂いている。解約時は、解約までに、ご本人様の今後について出来る限り相談にあたっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に月一回の訪問時、利用者様の意見に耳を傾けて頂き、日々のケアに活かしている。また、生活の様子などの写真をコメントを添えて御家族様へ毎月郵送するなどし、日頃から言いやすい関係作りに努め。意見等はミーティング時などに報告させていただいている。	家族来訪は月1~2回が多いが、毎日来る人もある。東京に住む人、外国にいる人等家族はさまざまであるが、できるだけ来訪されるよう働きかけている。中には災害時の協力を申し出る人もいる。利用料は口座引き落としになっている。	事業所運営に家族からの意見吸い上げが少ないようであるが、家族が意見を出しやすいように働きかけをもっと工夫すれば、事業所運営に生かせるのではないだろうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との年二回の人事評価・面談の中で、意見・要望を聞く機会を設けている。代表者とは月一回施設会議があり、収支から利用者・スタッフのことまで話す機会がある。管理者と何時でも相談できる体制があり、問題を先送りせず絶えず意思疎通を蜜にし、諸処の意見等は施設の運営に反映している。	法人の事業所間人事異動があり、仕事の希望や目標達成度のアンケートを生かしている。事業所では月1回ミーティングで行事打ち合わせやカンファレンスを行っている。職員の意見交換や提案も活発で、提案で休憩の確保、職員のユニット間交流を実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々について施設会議、年二回の人事評価の際や、その都度管理者から聞かれ、よく把握してみえる。介護支援専門員、介護福祉士など資格取得にかかる費用の助成、福利厚生の実施など、絶えず良好な職場環境や労働条件の改善に向け真摯に努力されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修機関があり、管理者から新人職員まで職員全員が学べる機会がある。また、企業内人材育成制度の導入やグループ内での職員異動など、会社全体で職員を育てていく体制を整えて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の社員旅行や研修を通じて、交流する機会がある。またホームページをリニューアルし、ブログなどで各施設の取り組みなど見ることが出来る。管理者は、月一回グループ内の合同会議を設けたり、その都度相談を行うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会という形でご本人とお会いし、ご意見や状態を把握し、入所時には面談を担当した職員が笑顔で迎え、皆様に紹介させて頂いている。また、入居に至るまでに見学に来ていただける方は、実際に見ていただいた上で、話を進めさせていただくようにし、対応できる際は見学のための送迎もさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や思いをお聞きしながら、施設内で対応出来ること、困難なことを説明している。また、利用に至るまでに出来る限り実際に見に来ていただき説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の心身の状態や生活状況を把握し、安心してサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯・掃除・配膳など出来ることは、職員と一緒にいき協力しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の介護負担や協力体制を把握しつつ、思いを確認し、出来る限る家族に協力して頂けるよう努めている。看取り期に入った時は、面会を多くして頂き、家族も十分介護出来たと満足し、後悔されないよう支援している。また月一回のおたよりで近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物などは主に地域のお店に行き、生まれ育った場所へ外出行事の実施を行っている。ご家族にも時間が合えば、面会や外出への協力をお願いしている。知人が訪れることもあり面会時間を大切に、その際は写真を撮らせていただき、家族様にもお便りでお知らせしている。	利用者の希望や意見は入所時の他、日常的にも聞いている。個別支援を重視しており、自宅やその周辺に行く機会をよく作るが、家族が行けなければ職員が同行するのもしばしばである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で個々の関係の把握に努め、言動や表情に注意し、より良い状態で関わりが持てるようにしている。ただし気分がのらない日は無理に関わりを促さないようにしている。食事の席やソファの位置など多様な面から調整し、また間に入ったりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へうつられた方、自宅へ帰られた方は、こちらから1.2回訪問している。また関係機関やご家族にも何か相談や今後協力できることがあれば気軽に話して頂くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り日々の中で本人が思っている要望や悩みなどくみ取り、本人の立場や状態に合わせアセスメントし介護計画に反映できるようにしている。また言葉が伝わらなくても話の内容・表情から意向を読み取りご家族にもお聞きして把握している。	利用者へ質問したり、利用者間の会話からもその気持や希望を把握するようにしている。把握・理解したことは、センター方式のアセスメント票に記録して、全職員が確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人・ご家族・関係機関からある程度情報収集をしている。またセンター方式を活用し、生活歴の把握に努め、入居後もご本人との会話やご家族との面会時にお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を注意深く見守りながら観察し、バイタルチェック・入浴時身体チェック・排便チェックなどを通じ心身状態を速やかに把握するように努めている。モニタリングや毎月のトピックスとあわせ、より把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の担当職員を配置し、アセスメント・モニタリングを計画作成者・管理者と相談の上実施し、カンファレンスで意見交換を行なっている。カンファレンスの際は本人・家族に要望を優先し介護計画に反映している。記録の見直し、カンファレンス開催方法について検討中。	モニタリングは毎月、ケアプランは3か月毎に見直している。毎月のカンファレンス(約1時間)で順に議論し、まとめたケアプランも全職員で確認している。利用者の状態が変わると家族を含めたカンファレンスで検討する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを用意し、身体状態や日々の様子・変化を記録し確認できるようにしている。また個別のモニタリングや介護計画にて評価・見直しを行なっている。介護計画は、職員全員が共有し、目標、サービス内容を確認しながら実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望にあわせ、買い物や馴染みの店に出向いたり、御家族が来れない時は、代行して病院受診や買い物など対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの行事に民生委員の方々に協力して頂いている。また、運営推進会議にて民生委員や地域の区長と意見交換の場を持っている。災害時などの協力もお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向のもと主治医や病院の選定をしていただき基本的に出来る限り家族に受診の付き添いを行なってもらい、家族が困難な場合は職員にて代行したり送迎だけさせて頂いたりしている。その旨は契約時に説明している。	協力医は毎月2回、往診している。利用者の受診は家族の了解を得て、全員が協力医を主治医としている。整形外科・眼科等の専門医を受診する場合は、協力医の紹介状により、職員や家族が通院に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時には連絡書類を作成し、何時でも利用者様の状態がわかるようになっている。医療機関へ相談と支持を頂きながら、看介護の連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会と合わせ病院・家族との情報交換を行い、回復状況などを把握し相談の上、退院後の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で重度化した場合について話し合い、わかりやすく説明して同意を得ている。看取り期に入った時には、主治医、ご家族を交えて終末期・看取りに向けてのカンファレンスを設け、本人・ご家族の意思を尊重できるような支援につなげている。看取り後は振り返りカンファレンスを実施し、次に繋げている。2月に1名の看取りを実施。	重度化対応指針により家族には入居時に説明し、看取り状態になった際には看取り指針で対応している。協力医や訪問看護は必要に応じて来訪している。家族には始終連絡し、点滴には家族がついている。職員は実際の対応に苦労しながら、まともに乗り切ってきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内勉強会と看取り介護などを通じて、常に急変時の対応などの向上に努めている。わからない時は、その都度主治医・看護師に相談するなどしている。状態不安定な方は、主治医、看護師と相談し、対応方法をあげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、火災を想定した避難訓練を実施。計画、準備から職員全員で取り組む体制作りに取り組んでいる。10月は、地域の方々に参加していただき、夜間を想定した避難訓練を実施予定。	防災訓練は4月、10月に実施した。避難対策を職員全体で議論しながら、初動訓練を重視している。水害、火災を交互に想定、連絡、避難、消火、夜間想定、救命救急等に取り組んでいる。消防署の参加、地域住民の参加も組み込まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格、状態の把握に努め、それぞれに合わせたケアに心掛けており、日常生活のなかで、入浴やトイレ誘導時の声かけなどプライバシーを損ねないように配慮している。	上から目線の発言はしない、敬語にはこだわらないで取組んでいる。トイレ介助に留意しているが、うっかり対応には互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人様の希望を伺い、自己決定できるよう努めている。意思が表せない方はご家族に本人様の好むものを確認させて頂く。認知症の方で混乱や不穏がみられる方は簡単な質問にする等の対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴など基本的な流れはあるが、ご本人のペースや希望を把握し、型にはまった決め事にせず、散歩や外出・一人で過ごす時間を作り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、起床時や入浴の準備は利用者様と一緒に決定し、出来ない方は職員にてお手伝いさせて頂く。外出時などは天候にもあわせて、職員と一緒に準備させて頂いている。散髪は定期的に訪問して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好調査を行ない食べれないもの、誤嚥しやすいものはメニューを変更し対応している。テーブル拭き・食器洗い・食器拭き・箸並べなどできる方は一緒にして頂いている。また個々の状態に合わせ召し上がって頂きやすい食器へ変更している。また、毎月一日は朔日餅を提供させて頂き、利用者様からは大変好評である。中庭には畑を作り、一緒に収穫まで楽しんで頂いており、季節の野菜、果物でおやつ等、手作りすることもある。	炊事は委託業者が厨房に入っている。隣接の小規模多機能施設と共通して、給食委員会を3カ月ごとに実施、メニュー・味付け・調理法等を検討、畑の作物も使用している。朝7:30、昼11:30、夕17:30としている。利用者によっては配膳や利用者のエプロンかけ等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分量を把握し中間でチェックしている。少ない時は本人の好むものを提供したり、コップの大きさをかえてみるなど工夫している。また症状や状態を考えながら、ゼリーやトロミを使用する、水分摂取が難しい方は、果物や好みの物等にて水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ確認・見守り・介助にて行っており、就寝時は義歯を預かり洗浄等を行っている。うがいや歯磨きなどが難しい方は口腔用のウェットティッシュを用いて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう定期的なトイレ誘導を行っている。尿意のない方も表情やしぐさで読み取り、心地よく排泄できるように支援している。また個々の排泄状態にあわせトイレ、ポータブルトイレの使用、パンツやパットなど日中と夜間に合わせ使いわけるようにしている。	排泄チェックにより、各自のパターンを把握し、介助の資料にしている。トイレ使用を基本にしなが、おむつの種類、大きさにも注意し、不快感のない生活を基本とするような取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分チェック表にて個々の把握と水分摂取に努め、日々の活動を増やしたり、入浴時に腹部マッサージをさせていただいている。また便秘がちな人は、乳製品を取り入れたり、服薬による排便コントロールも行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの心身の状態をみながら、なるべく週三回入浴して頂いている。ひとりが入浴する度に浴槽の洗浄とお湯の入れ替えを行ない、清潔かつ不快がない様にしている。状態や病状に合わせて、個々にあった入浴方法にて対応している。	1階では各自の好み、2階では順番を決め入浴している。主に午前中に入浴、午後はゆっくりとする時間になっている。入浴剤は使わないが、菖蒲湯やゆず湯はしている。ほとんどは入浴好きだが、1人だけ嫌いな人がいるのでいろいろと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や表情をみながら、無理のないよう日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。夜間も就寝時間は決めておらず、本人の希望やその日の状態に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人別にファイルに整理し、薬は個々に薬袋を分け、誤薬や飲み忘れがないように努めている。薬の変更や追加があった時には、個人の薬袋に記入し把握できるように対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの楽しみを入居後も継続して頂き、役割を果たした時には感謝の気持ちを述べるようにしている。散歩や買い物にも出かけて気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように、近所への散歩や、買い物・行事などで外へ出掛けて頂けるようにしている。またご家族の協力が得られる時にはお願いし、自宅への外出も支援させて頂いている。	季節に応じて散歩や買い物に出たり、初詣で、花見、祭り参加等の行事を計画している。また、外食する計画も適宜している。できるだけ外部の人と交流するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しているが、お出かけの際などご自分で支払い出来るように配慮している。またご自分で出来る方に関しては少額を手元に持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が気兼ねなく電話で話せるように、職員は電話中はさり気なく見守り、希望に応じて電話などの対応、取次ぎを行い、プライバシーが守れるように、自室か事務所を使用してもらっている。毎月のおたよりを利用し、一言でも気持ちが伝わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられる飾りを利用者様と一緒に作り、飾っている。テレビやCDの音量で混乱を招かないよう音量やかける時間にも配慮している。照明や日差しもその日に合わせ調整し、空調などは日々の室温湿度管理にて快適な暮らしができるよう配慮している。	1階は比較的介護度が重く、2階は元気な利用者が多い。1階、2階で適宜交流している。昼は皆がロビーに来るので、一緒に作品作りをしたり、おしゃべりしている。外来者があると話はずんだりする。2階は暑いので夏の空調に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、相性がいい方、生活リズムが一緒の方などに合わせ、施設での人間関係がうまくいくように席を配慮している。テレビを二ヶ所に分けて置き、居場所作りをしている。自室、居間、食堂を使い分けて、一人で過ごすことが出来るよう配慮している。玄関にもソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の馴染みのあるものや写真、好きな物を置いて混乱させず、心の落ちつく自分の好きな居場所が出来るように支援している。寝具、箸、湯飲みや収納などは個人の物を使用している。居室内の配置は、状態に合わせて変更したり、ご家族の希望を取り入れたりしている。	アルバム・ソファ・趣味の品・仏壇等、それぞれの好みでさまざまな物品が持ち込まれている。何を置くか、本人のみでなく家族の意見も聴いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設がすべてバリアフリーではない。歩ける方は階段を使用し、床に傾斜もあるが手すりをつけたりと工夫し、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。		